

ねらい

- ・音楽に合わせて歌ったり体を動かしたりして、拍の流れによって表現する喜びを味わう。
- ・名刺カードを友達と交換しながら、自己紹介をする。

ポイントと
幼児期との
つながり

子どもたちは、これまでの遊びや生活の中で、身近にあるものを楽器のようにして遊ぶ、リズムを感じる、即興的に歌う、友達と一緒に踊ったりするなど、音楽に親しんでいる。また、自分なりの表現やその楽しさを先生や友達と受け止め合いながら、友達と一緒に表現し、楽しさを味わう経験をしている。

実践内容

①時間割や学習活動の工夫

児童が1日を安心して楽しく始められるように、朝の会から1時間目を連続してとり、担任による読み聞かせや、歌や手遊び・ゲームなど園で慣れ親しんだ活動をする時間〈なかよしタイム〉を設け、10分から15分間程度を使って本題材の指導を進めた。グループやペアでの活動を設定し、友達づくりの要素を入れることも意識して行った。

小学校でも
ハンカチ落としが
やりたいな。

みんなでやろう!



「ハンカチ落とし」

園で経験した
ゲームの後



「ひらいたひらいた」

この歌、知ってるよ。
こうやって動くんだよ。

みんなで小さくなるのが
楽しいな。

②関連的な指導の充実

- ・生活科「わたしのがっこう」の学習で、幼稚園や保育園での経験を交流した後、児童が園で歌ったり遊んだりしたなじみのある曲と一緒に歌ったり踊ったりするようにした。
- ・題材「はくをかんじとろう」の楽曲『さんぽ』では、拍によって歩き、出会った友達とジャンケンをして楽しんだ。翌日の〈なかよしタイム〉で、同様に歩きながら、曲が止まったところで友達と名刺を交換する活動を行った(国語科「どうぞよろしく」)。

手をたたきながら歩
くと、楽しいよ。

出会った人とジャンケン!



「はくをかんじとろう『さんぽ』」

翌日



国語科「どうぞよろしく」

『さんぽ』を聞くと、
楽しくなるね。

音楽が止まったら、出会っ
た人とジャンケンをして、
名刺を交換するんだね。

③学習環境を整える

友達の顔がよく見えるように円になって座ったり、伸び伸びと体を動かせるように机と椅子を教室の後ろに寄せて広い空間を作ったりして活動した。

体を動かして
歌うと楽しいね。



「うたっておどってなかよくなろう『チェツェツコリ』」

友達と一緒に踊ると
楽しいね。

友達の音をよく聞いて
リレーしよう。



「はくをかんじとろう『手拍子でリレー』」

友達とリレー
していくのが
おもしろいな。

授業を振り返って

なじみのある楽曲と一緒に歌ったりすることで、子どもたちは自然と手足を動かしたり、歩き出したりして音楽を楽しむ様子が見られた。音楽科で歌にジャンケンを取り入れた学習に、国語科の「名刺交換」を組み合わせることで、楽しい雰囲気の中で自己紹介をすることができた。「はくをかんじとろう」では、椅子を円に並べ輪になって学習することで、消極的な児童も友達の姿を見ながら手拍子が打て、みんなが楽しい雰囲気の中で学習を進めることができた。